これまでの授業研究会を振り返って

11 月 18 日

研究主題
「伝え合う力」を育てる学習活動の創造
―伝え合いをひろげよう―

1　研究の仮説

(1)　学習財や課題との出会いを工夫し、一人一人の考えの良さを認め合う。

(2)　教師は子どもが聴きたくなるような話をするよう心がけるとともに、何でも話せる学級を作り、今、自分がどう感じているかを表現する機会を多くの子どもに与える。

(3)　伝え合いにかかわるふり返りを位置づけ、一人ひとりが自分の伝え合いのめあてと成果を明らかにしながら学習を進める。

2　一回目の全体研究会でご指導いただいた視点

(1)どの教科でも相手意識と目的意識を確かに持って伝え合う。

(2)交流（子供同士の学び合い）のよさを子どもも教師も意識した場面をつくる。

(3)ペア・グループ学習の段階指導を探る。

3　学校全体で重点的に実践された仮説２

これまでの授業研究会をふり返ったときに、わたしたちが特に力を注いだことは、自分の思いは持てるが、それをどうすれば出し合って、学び合えるようになるかということだったといえる。そこに実践が集中した理由は、教師から教わるということだけではなく、友達同士の学び合いを大事にしたいという先生方の気持ちの表れであると考える。

＜具体的に実践されたこと＞

(1)発言のさせ方の工夫

①Ａ君の発表に対し伝えたい人が全員立ち、指名なしで、次々と考えを語る。

②4 月から挙手なしで発言するようにした。つぶやきを拾いたかった。その結果、子どもたちが気軽に、そして型ぐるしくない言葉遣いで話すようになった。

③コの字型に机を並べ替えるだけでも、交流の意識が生まれるということを感じた。

(2)ペア交流（学習）、グループ交流（学習）を取り入れ、学び合いの場を作る

①交流の基本であるペアでの学習の際は、学習の内容が多くなりすぎると、最後までできないペアが出てくる場合があるので、注意したい。

②同じ学習内容を、ペアを交換して行うという活動は効果的であった。同じ時間の中で、相手を代え繰り返すことによって、学習が深まっていった。

③「さあ、交流しよう」という強い意識を子どもに持たせることができると、学び合いが成立する。友達の発表を聞いて自分がどう感じたかを「返す」場面が見られた。

④グループを作った方が、子どもは懸命に時間を惜しみ学習するといってもいいかもしれない。グループ単位の学習において、ふざける子どもはいない。そして、グループごとの発表を見合いながら、自分たちにはない良さに気づき伝え合っていた。

⑤5 分間という短く感じる時間においても、十分な交流（学習） ができることが分かった。

(3)自分の思いをどう受けとめてほしいかについて、子どもの気持ちを聞いた

「自分が発表したとき、聞いている人にどうしてもらいたい？」と子どもに投げかけてみた。すると、「聞いている人はどう感じたのかを言ってほしい。」と答えたという。このように、日々、行われている数多くの発言や発表が学び合いに高まるよう、子供同士で見つめ直す時間を作ったという実践もあった。

4　他に　授業実践を通し明らかになったこと

①　子どもを主体にした授業づくりができたとき伝え合う意欲が高まり、学び合いが成立する
教科書の文章の詳細な読み取り型の授業になると、子どもの目が輝かない。
→子どもから疑問を引き出し、それを授業で解決していく

②　振り返りは、あくまでも学習全体の充実のために行うもの。伝え合い（話す･聞く・話し合う）だけに絞った振り返りは時にはいいが、毎回となると大変であることが分かった。
○、△などの記号だけでなく、簡単な言葉や記述式など、学習の何を見つめさせるかを考慮した形式を考え実践された。

これまでの授業実践

学級	授業者	教科と単元名
5月　4の1	小北茂子	国語　大事なことを落とさずに話す、聞く、書く「伝言はまちがえずに」
6月　3の1	田宮　浩	算数　わり算
6月　2の2 全体研究会	渡邊　幸	国語　本と友だちになろう「スイミー」
6月　6の2 全体研究会	工藤史子	国語　読書の世界を深めよう「森へ」
7月　5の1	山田裕子	算数　三角形の角を調べよう
7月　1の2	松本充恵子	国語　すきなもの、おしえて
9月　2の1	阿部理津子	国語　だいじなところに気をつけて読もう「サンゴの海の生きものたち」
10月　3の2	奥山清美	国語　場面の様子をそうぞうしながら読もう「ちいちゃんのかげおくり」
10月　みなみ	後藤るみ	国語　漢字クイズ大会をしよう
10月　1の1	阿部静子	音楽　いいおと　みつけて　あそぼう